



Title	村落と都市の研究
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1966
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77303
Type	manuscript
Note	資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）
File Information	K018_014.pdf



[Instructions for use](#)

都市研究 4

47

NOTE BOOK

MADE BY CHIVODA NOTE CO. LTD.
USED SUPERFINE FOOLSCAP MANUFACTURED IN JAPAN

村落と都市の研究

III

社会秩序と社会流动
区域社会と社会
村落社会と社会流动
上层社会集团



一、此本成層之說，其後知
一、民社黨之構想
一、專制之說，極其詳也
一、上層之集團。

活知つた。五水五事の全部である。

然し外知ありは水は事にはその集

因の活知である。西の死中何部

は事の行つた極である。鶴飼は

此より事集のときんはらあす水。

物しそれれは水は水の物場の活知

にすうである。職人あすもの女

その職のよん打前以上の事ある

あつたとししれは不足ははなる。

は事集はたしか鶴飼もろくに活知費

を五つとす。鶴飼が事の集あつた

有知こと活知をさすてかりとす。それ

（七の二）

市議會のよりの決意を以て以上は市民
の之を以てしむるなり。然しこれに市
務局の政策を決議して市議會の
決意を一人くの市民の意見に
を同心にあつると同様にあり。市議
會の決議と一人くの市民の意見は同
様にあり。多國に於ては、市會
の決意に市務局は何等の又何れ方
分の一の責任を感ずるとして。市民
市の活動は一人くの市民には自覚
し其等と異なる市の活動として
おへしむるなり。然しこの市の活動

その上には自ら多とを結ぶべき
より何もない。市民の集團的
活動とそれとの関係。それは市の
行政的活動とそれとの関係。
市の行政的活動とそれとの関係
活動とそれとの関係。
行政は自然の経済的統一である
と云ふは行政的統一は経済的統一
行政的統一は自然の経済的統一
に依るべきものである。行政的統一
は自然の統一は経済的統一である。
都市は行政的統一は経済的統一

あつてその内の自由打に比す可き
は多し。都市に打け、自然指は
定る職域を同くす。或人は
世帯とて入る。宗祧は夫婦同
存の同業となり、近隣は各力
を以てしる。

打者に打け、近隣集團に比す可き
地は北方は都多し、有し、はる。
区や町や、^{何何}区は是れ
土地の区分也、又、^{何何}群集體
の区也。或時は町内各區
に二つ三つあり、而して

形成して居る。我れも此種物を見るが
際して片之アツいて居るが、その水の中を
とすか、えりなく消滅して居る。

御堂江村等、今方と云つても、今方、
三小文の機能、大しなる、方面、委其の

境、各地、は機械的、色、白、の、物、なる。

高唐、御、に、休、養、を、受、け、し、て、御、館、を、

協、力、し、て、居、る、と、云、ふ、と、云、ふ、大、學、校、の、功、

用、を、協、助、し、て、居、る、と、云、ふ、と、云、ふ、が、何、

分、か、い、た、く、お、お、と、云、ふ、自、由、加、の、し、て、片

は、その、丸、子、の、機、能、的、に、色、の、所、内、協

力、が、あ、る、と、云、ふ、と、云、ふ、と、云、ふ、が、その

は家村的境川の遠くと云ふことあり、
市街町の北西下の堂の字に楢子やわさ
校甲子私の通す道は相方ちをな
新道をかへるとあり、此より地区分
可は木末余之振振専 礎地にはと
と居たり。

(文化階層の配列と都市)

E 文化階層と文化流布

農村に於ける文化階層は古くからの封建的
 身分と同化してつくものゝ多かつたがそれ
 文化階層の存在するものは強固同化に於いて
 その階級の地位を保持して行くが、これを
 とある、この階級の地位を多岐を保持
 して行くにゆくが、これは多岐を保持し
 たりしてはそれを保持し置くのより封建的
 階級の地位を為すに於ては、多岐を保持
 する文化階層に於ては、大規模の地位の
 存在を、^{持た} 階級が小規模のものを、古くより
 の農村の文化の階層の保持は元来わ
 の階級を保持して行くのである。

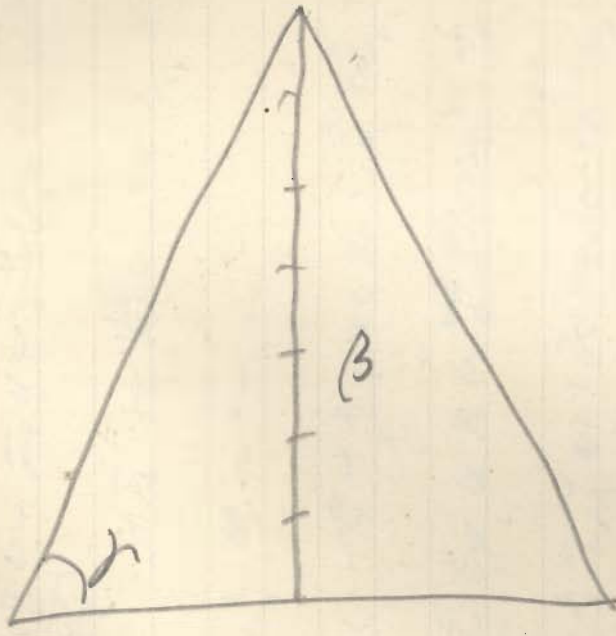
カ作人を知る地主は何れ新しし思
工部局を想す事によつて法を字にの地位
に存続すかを知れぬ、是れ此の村の同
てあり。或は法を字に思ふ事ありて工部局
を以て高野又は合衆の村に
しりてある、これにこの法を法に
よりともつてあり。

都予に於ては宗族の
の消滅

了る族に於ては常の法を字に
の法を字にしてあり。是れ此の法を字の

新法ありて常の法を字に
てありてありか、宗族の地位に

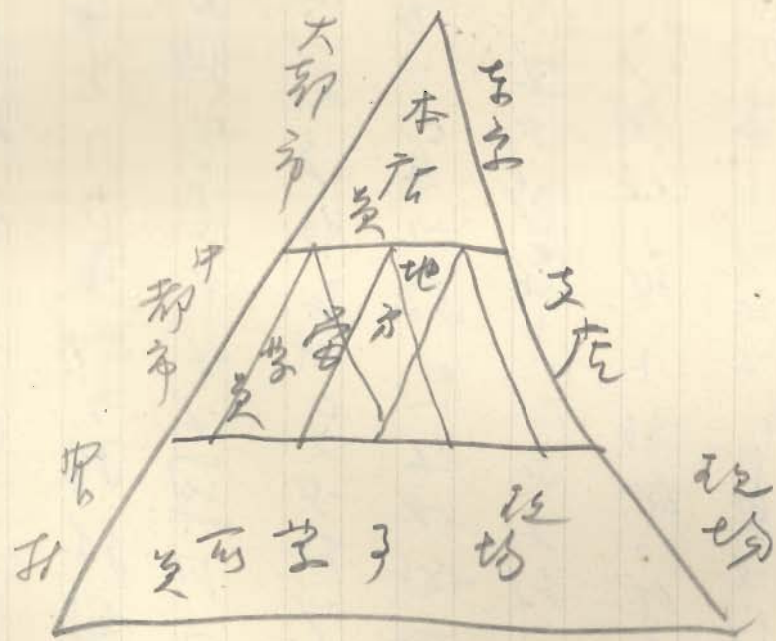
大平九千の云



北海道立労働者を研究する研究報告第四十三号
 北海道労働者の給与及び生活実態
 多野

代償的要素よりこれに於いては、^{地位}ピロミットの
 成層を有して居る。ここに身分の
 別は、學位時給等の収入、職務上の
 責任の重さ、^{素直}知能技術等に基いて
 し威力の如き一定の上にある。又
 職務別に於ける地位である。地位
 のピロミットは、^{素直}新令の重さがある。
 給与は、^{素直}三角形に於ける地位は、^{素直}階層
 形である。甚しく高い地位は、^{素直}階層
 を有し、^{素直}ピロミットの底辺を有する。即ち
 即ち規模が、^{素直}大なるもの、^{素直}地位は、^{素直}大なるもの。

匠は有。専ら此に於て其の業を修むるに
地位の成序あり。大なる其の位のない
もろろに其の位も有し。中其
や田舎町に於て大なる其の位も有し。其
かゝる高き地位あり。故に高き教養を
修むるに其の人はかくの如き地を以て其の
大なる其の位に匠たるより其の位あり
其の位の知識技能を以て其の位に其の
其の地位も其の位に其の位に其の位に
其の位に其の位に其の位に其の位に
其の位に其の位に其の位に其の位に
其の位に其の位に其の位に其の位に
其の位に其の位に其の位に其の位に



何れも。高い文化と大なる消費生活
 がある。乱暴である。

然し匠より多岐に仕高、地位が
 高、五七と若に甚く多岐の低、地位と
 貧困な者若の窮乏と生活がある。
 (この下層に)

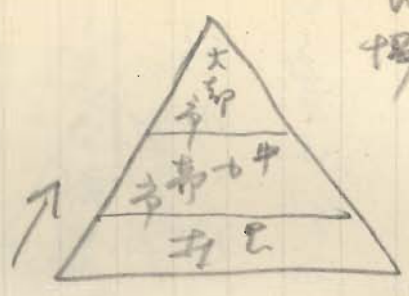
然し匠より多岐に仕高、地位の低
 的、支店、若からは地方に多岐に仕高、

支店、若から、銀山、漫物、
 支店、若から、大支店に仕高、上層の低

的、支店、若から、支店、若から、
 支店、若から、支店、若から、
 (支店、若から、支店、若から、)

匠より多岐に仕高、支店、若から、

只場

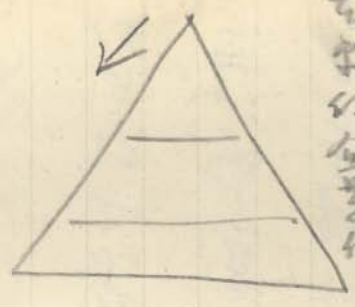


下から上への力

只場より都市へ

民衆的

都市の発展



上から下への力

都市より只場へ

ファウシ的

その分岐をなす地方各地の行政
 かのり基幹との関係は深まる可
 べしある。生活のありゆき面におい
 ては関係は深まる。大都市の
 子母か中や都市のありを支配し
 中や都市のありが架橋に生かす
 の地域の人の支配して居る関係
 がある。大都市の本拠より
 地方の支配はその下の土壌に
 下の権を認めに行くに依つて地位
 の低い人が居る。最下位の労働者
 と本拠の支配者との共存は

同の巨首

甚くしく遠い。

市はなほして孤獨な世のより其のついで
亦べえうてある。同様の圃工配製
其の同様の行政、是を、静養、流行
甚く道、ヤクサの伴子、字類、その同
世号にわつてあり、大なるう法をへ。
地味は常世の類推に及じ、其
より其の類推に及じ、其
の強しと弱し、
都市は地を支配するより其の
集まりよりなる。然し、其の
は本来地元のその場の状況に

在りし地方の中心を以つて、
地方の中心を以つて、
地方の中心を以つて、
地方の中心を以つて、
地方の中心を以つて、

中央の中心を以つて、
中央の中心を以つて、
中央の中心を以つて、
中央の中心を以つて、
中央の中心を以つて、

中央の中心を以つて、
中央の中心を以つて、
中央の中心を以つて、
中央の中心を以つて、
中央の中心を以つて、

中央

存在しつたものとする。中央の支配を
とし地方の中心は活動的であつた。地方
の中心は中央の中心から活動的であつた
もの。

凡そ前者の存在も中央の中心、
地方の中心は活動的であつた。地方
の中心は中央の中心から活動的であつた
もの。

地方の中心は活動的であつた。地方
の中心は中央の中心から活動的であつた
もの。

地方の中心は活動的であつた。地方
の中心は中央の中心から活動的であつた
もの。

地方の中心は活動的であつた。地方
の中心は中央の中心から活動的であつた
もの。

地方の中心は活動的であつた。地方
の中心は中央の中心から活動的であつた
もの。

地方の中心は活動的であつた。地方
の中心は中央の中心から活動的であつた
もの。

中央

文化は都市の余剰の生活の中を生かす
よ

都市の地方支配、地方振興、
都市の公共物利用の能く、都市
の公共物模範、不平等階級等々の
と、
の体系がある。

都市は地味を支配し権を有するから上
か、実はこれは都市ではなく都市
集積の中心の上下部の上層部の
地味に於ける下層部に対する関係
過可なり。故に上層部は都市に
於ける下層部に対する関係は
係を打つ下層部。即ち都市に於ける
上層部は都市に於ける下層部に
対して支配探取の関係に於ける
先ん立へたか如く大都市には品下
層の政治的勢力を全く以て合
い、その政治的勢力は宛て都市に
地方を支配するに似て居る。然し

合理的に且つ原始生産者即ち中核
の邊、新學堂の院地も亦所は
地方に在りし。其の新學堂は低く收入
に付録に依り生活に苦しみかし、
いふ事、~~其~~に依りし。然し、
是れも此都市を中心とし、
銀座の如く収めし。三井、
日島、~~其~~、三井、
在るへは、
は、
新學堂、
北條、
中核、
都、

三井不動産 (五百万) 三井精機 (一億四
 三井船舶 (七千万) 三井鉱山の下には
 十八の鉱山等記があり、その外二十
 五子等の記と上 故これより公平
 記の記は本機 三井倉庫
 東洋探鉱の如し、更に三井物産
 三井物産及び三井貯留と密接な関
 係の存在がある。
 三井貯留山下の多岐の鉱業所の
 一つが赤平出炭所。中央の巨大
 な力の前に赤平炭所の存廢は
 赤平の存廢を決定する形である。

然し其の關係は前述の如く都市の上層を
 地方の下層を支配する。關係にあること、
 先づより明らか、都市の上層が同様に
 都市の下層を支配するのと、
 地方の上層が地方の下層を支配する
 手は、漢然として都市の上層は、
 なく都市の上層が、地方の下層の上
 層を支配する。
 都市の上層と都市の下層を支配
 し、地方の上層は少しと、
 地方の上層が、地方の下層を
 支配する關係は、
 地方の下層は都市の上層に
 地方の上層は、
 地方の上層は、
 地方の上層は、
 地方の上層は、

女大卒卒業は^就解^は是^は調^はべ。
△中商の女大の^は調^はべ

層別組織をなすに当りては高工業が
がまわらば。それ等の人は自ら
強き上自由の立場にある。彼等は
その上でも配し豫めしてさしはなす。
然し彼等の多くは高層の知識技術
を必要とする。何人しなくしむるもの
に事、大に経済的価値は低い。その
生活程度は低く収入も高くない。
故に高い教育をなすに上乗者なる
能力を有するものはからぬ。職業
に甘んじておこなふ。彼等は皆その能力
を他人に譲渡しなす。故に彼等
をへ、それとさうのたうなものの
に加入する。△高層工業は皆低い
教育をなす。△凡庸の材と
は云いおこなふ。知識は、優秀者の人材
と自他共に認められぬ。おこなふ工業
は、おこなふ。△高層工業は、おこなふ
彼等は庶民の思想の格に及ばぬ。

少しして大抵学世の学文士としての希望
を打つて片のから、収入の余剰は貯蓄して
その拡大に努めようのである。その生活
は決して豊かでない。同程度の収入であ
る大抵量の純蓄蓄に比して生活は違
わぬ低い。わ高工費をば独身して自
由である。大に失敗は災害も咎む自らの
独力にあって保障しなげな「不運」
と云ふ。大に純蓄蓄と努力と（堅強）は其の
べき。生活をおさる大切なり。勤儉
力行す。子が比程の人の生活知恵に
あす。

都市には高い文化が、様々の学
界がある。然しそれを物用するは
多くは大抵学の上層である。わ高工
費をば大に純蓄蓄の存在である。
然しそれ等の文化を都市に存在
せしめて片のにはわ高工費をば大に純蓄蓄の存在である。

① 大層な位の上層部の人々の乱
 舞の爲にしろの争いにかに即ち彼
 等と考へ都市内にその甘じいさを
 す。下層の人々の居るべき所を
 い。小中や企まき様かそれにて、彼等
 は大層な位の上層部の人々の甘じいさを
 ぶのぬん都市に位にせよと云へり。
 又その中や企まきには都市より
 清くしよはなへり。

都市に於
 ける人々の
 生活は正に
 一足登り中を
 かし知れぬ

大層な位の高層部の人々の乱舞の爲に待合、そんなものは洗
 物同するか。大層な位は庶民の
 延びておかない世多ある。その
 都市の庶民も地すつ庶民と同じく
 清く文化は新用しおさない。
 否、都市と地主の支配権の同化
 あり、これはなく階級の上下の同んそ
 にはある。同化しては、
 似たな巨工都市に、
 ち、即ち高工業者の大群は、
 清く、
 東部の五田にはこんな小工業者
 新が全世界の平均しては、
 ニューヨークのロンドンに、
 全世界は各所より、
 あらう。

④ 従来都市の人口の増加に同じ

このまゝの足らぬを、不足とする。

有名なハンセン氏等の研究は

中世より移入される人口は都市の

どの階層に加入するかに同じです。

このことが、実証的研究の結果として

全階層に加入すると主張するも、これは

あしからずである。然し都市の階層

そのものに同じです。解は不足を

ある。

都市の階層階級について、吾人は

の移入と解をいふ所である。既に都市

の存在構造について述べたところ

に、これらに、都市の主要人口

は、金銭的な幸福は、所得次第で

を作り出し、片よきで、この種の人の

多量に浮沈や移住は、おきんはけい

お、然し都市の土地に留め給いつい

層のものは、この層の人口に比べて

故に都市の中心部を、人を移すその

部を、最も後して、片よきで、この層の

に、わきまを。

然し都市を、何となくと見て、片よ

は、大に、片よきで、都市を、代か

の、し、片よきのは、かくの、わき、大に、片よ

に、片よきの人、に、片よき、人の

他、片よきである。

◎

は、置く、大々のうま作の可成りして居る。故に
 都市の階層と云ふものは、ある世では、それは
 此等のうま作に依りて、成りて、おこすには、な
 りぬ。既に述べた様に、大々の作のトップ
 階は、階層が高い。故に都市の上層
 位の人とは、大々の作のトップの人である。
 甲や金や依りては、高い階層は、な
 りぬ。それには、大々の作の、最下層の人
 んの様に、低くは、な^らぬ。然し、大々
 の三階層は、な^らぬ。大々作の
 上層部、甲や金や元、労働者
 層は、然し、果の相互に、高下あり
 又、うま作に、大々あり、甲や金や
 にも、大々あり、や、うま作として、是れ
 果を、総合して、おこす。ト、互を、して、戸
 のあり、近代都市に、おこす、大々、此

都市の機能
 F 民族化の構造 （此今の都市）

人は、家族の内、産業階級、家族
 と、この団結
 近隣の内で成長し、（おこす）更に団結
 した、故に、都市に、生計を、立て、
 したが、経済的、文化、的、も、自然、自
 的、の、（おこす）、（おこす）、（おこす）、（おこす）、（おこす）
 経済的、文化、的、的、おこす、（おこす）
 と、（おこす）、（おこす）、（おこす）、（おこす）、（おこす）
 能く、支配を、おこす、（おこす）、（おこす）、（おこす）
 した、（おこす）。
 おこす、経済的、文化、的、的、他の
 此等と、関係、（おこす）、（おこす）、（おこす）、（おこす）、（おこす）
 此、附近の、都市、を、通し、（おこす）、（おこす）、（おこす）

この回りの一は階級の対立を抗争であ
る。階級は階級の陣営に分れて居
る。この陣営の分割は本来の基
礎に於ける階級にも無関係にはないが
之を以て階級意識の基づくものと見
ゆる。吾人は之をこの基づくものと
階級過剰の分界線を分析する。之に
より客観的にそれをわきまする。之
をよめる。(高野は階級の伝道者の伝)

その中心都市として交通了した。如き
る。都市は民族を又世帯を統制
し統制する。その統制的地域の統制
である。中心の巨大都市が
大中力の分枝的都市がマンヘンなく
地上に配置される。之は
統制はそれらの統制の統制の統制
により大統制の統制の統制の統制
統制の又他は協力を仰ぎ加へて
之の統制を在来配や操縦に安ん
じられしをいぬ。
中心の巨大都市より大中力の地

万部系を四方に分散配所置し

之より純潔な政治的な支配

の純潔な事をして、政治的な

統治の純潔にして、又之は文化

配所の純潔にして、

故に都市は其の民族の機関として

政治、教育の配所としての

役割をもつて、

故に其の始は産物生産の中心

あり、その生活が、

生活資料の他に、

かくつた生活資料の生産物と

故に高きは都市の生半的
の存在である。

交易すか可しと都市には施設をも

この高き商業である。又交通、通信

運輸の施設あり。材料が交易と

従ふに活路材は強と皆工業製産

である。

工業は三の原料や動力ある常任の因

ゆわく土地に於いては所在いはるへ

なり。虫山後郊外等の如く土地の

因着して所をうけるは、其是

あり。

原料の集まりやるやる、与るや

交易も便利とあるは、その工業の

所都らん集まる。否、亦都市は

高学よりも工業がさらに固まる

発展す。

いかにして好むか、場合から多うのてた、のり。

都市にまらして工業の果茂るや、

高学と工業の果茂るや、

工業の発展を促すに、

工業と

高学と大いに、常々同教信て、

其他の各種の職業はさすまでもを合せ、又たの

工業又は高学と同教信て、

即ち高学より工業と其他の三者

が各々三〇%位である。P. 12 (右を指す)

然し果して工業者の才の果茂る

都市の性格を是等するに、

いふはさうの實効からしてよい。

原振瓦割の道場をか集つて集落をなす

こゝにこそよくある。土のふるところ

集落のつとめ。然し五三の山形を形成し

こゝをいつか集落の中心とせよ

の山形をなすの如き密集して

集落のつとめが都市的になる

五三の山形集落は中心をなす

集落のつとめが都市的になる

集落のつとめが都市的になる

集落のつとめが都市的になる

集落のつとめが都市的になる

はたしぬ。交易の流通の機軸を加へ
いつかこの都市の機軸は停つてゐる。

又都市たるには政治都市の性質
がある。
本質的に政治都市。故にその官衙

の所在地と云ふ文とはなく、

ホス^{感力の}的存在するところ流弊の地所

的配^給所である。すなはち要である。ホ

スの威力は上に対する同僚の力に於

ては口の中に入らぬ。下の同僚

に對して地味な官制の中心に及ん

ず。流弊の中心は世界的である

ほんの思ひぬ。故にほんの思ひぬのちか

の教育(教育)。かくの如き政治的
文化的教育の教育としての機能
に依りて都市は発展す。その
経済的
政治的
文化的教育の教育は是等の
は、人生活知となる政治的、
教育的、
経済的、
文化的教育の教育は是等の

一、政治的教育
政治的、
文化的教育の教育は是等の

政治的、
文化的教育の教育は是等の

一、政治的教育
政治的、
文化的教育の教育は是等の

政治的、
文化的教育の教育は是等の

一、政治的教育
政治的、
文化的教育の教育は是等の

政治的、
文化的教育の教育は是等の

政治的、
文化的教育の教育は是等の

政治的、
文化的教育の教育は是等の

口のごんを

人我

いんざん山白鳥の一家北世界の揚方の純粋

にんねのよの純粋の様国が知事

耳の

長松又山口良の純粋は右の如く中央の

巨大都市より中々都市を控つて中央

の一家も、皆も水なき^{運移}純粋を以て

片よ。大半の都市は中央より全の

母も亦^口口良も亦又は良純の

文化の自敏型を示し行知の方向

を教へて片よ付達の道路にお

り。又良良のおおし良純型材を

配捨す大甲のあは法行下す。

然しるすを^既中中央の

その良産物を^既けしけの調

道機^同を^しつ。工業者は

良良に同じ良産を^しんす。

配けよのあ奪けん

このか。

良良の良導んすか
都良良の良導んすか
史上未だ良良の
良良の良導んすか。

包々の信託 ^の 都市に 集まらるる

市民の生活には 豊盛と 工業が
あはれ 一層 生活 行くの に 多分 である
その他のものは 文化の 発展の 費に
附随して 行く ^{事業} の こと 思はれし。

市民と 工業との 交差の 信託の 爲に
交通 運輸を 爲し 人は 安らぐ。

それ等の ための 工人の 生活に 所從
し 都市を ならす。

もし 階級 階級と 云ふ ところ ならば 市民
階級の 記念の 文化の ための 必要の 工業
である こと 明らか。

大田氏の 著作には 思ふ ところ ありや ありや

(藤任氏の 一冊は 山中の 大田氏と あり
一冊は 都市の 土著 市民と あり)

字の 一部は かなり 難字 なる ところ ありや
民が 未だ 道人も 犯案 せしむる ところ ありや
軍隊 政治 必らず ありや ありや

皆此を中書とみん上下同の科を
務序まじりるに治法と郡府を
同隊か伊をこまなすこまかくこましむ
不孝に意して字新を起り、又
上原湯沼の右用は治は神事と
其地をこまなすこまなすこまなすこまなす
吟部市に集まのこまなすこまなすこまなす
貴人等はくまの地をこまなすこまなすこまなす
くの如標を都市に集めぬこまなすこまなすこまなす

町中及もた多く都して居る。その大
多は、
各法より経済的、政治的、文化的、慈善的
を有して居る。その慈善事業は、
その地を以て、
境物を有し、
細公、
記憶の多く、
人の多く、
政府や、
左の、
その、
の、
送、
衆、
居る、
有る、

市域

都市生活圏

市域

都市計畫新法の適用区域
市街地建築物の建築
借入法借地法

注意

定期券新法交通量
新同市の府配運

電法即時生活
運通郵便

水色瓦斯衛生共同圏

建築物配圏

各種配圏

都市生活圏
交通配圏

6
建築
都市計畫新法の適用区域
市街地建築物の建築
借入法借地法

近隣の交通
市街地の交通
借入法借地法
定期券新法交通量
新同市の府配運
電法即時生活
運通郵便

清水寺の境内

一、村落

二、都市

五、市街地 (行政的、官設の共同圏)
四、市街地 (行政的、官設の共同圏)

六、共同新案 (運輸、運輸、郵便、住宅共同圏)

七、交通共同圏 (運輸、運輸、郵便、住宅共同圏)

八、交通共同圏 (運輸、運輸、郵便、住宅共同圏)

九、交通共同圏 (運輸、運輸、郵便、住宅共同圏)

大分県、大分市、大分県立病院、大分県立図書館、大分県立博物館、大分県立美術館、大分県立体育館、大分県立競技場、大分県立体育館、大分県立競技場、大分県立体育館、大分県立競技場

十部队的地区 (連隊本部町村)

十部族

十部族

十部族地区

右の如き物への地域の統合の統一の成

時に東部の基盤の統一形成された

此の東部を統合の統一を東部地区

と呼ぶ。

既述の如く

此の東部地区の統一を東部地区

此の東部地区の統一を東部地区

一つの集落を形成する場合に

その中心となる村を核とし

これを中心として集落を形成する

このようにして集落を形成する

その中心となる村を核とし

これを核として集落を形成する

このようにして集落を形成する

このようにして集落を形成する

このようにして集落を形成する

このようにして集落を形成する

このようにして集落を形成する

このようにして集落を形成する

このようにして集落を形成する

このようにして集落を形成する

このようにして集落を形成する

大都市生活圏は都市より農村への
同化を意味するものである。

考へる場合その

中心としての都市

④ かくの如き都市を中心とした地域
的統合の統一は極むに可い。是れ
を、一、四、五、六、七等階層とする
都市中心の統合の統一である。

かくあるものは日本の戦後の歴史を
の形が、一、二、三、四、五、六、七等階層
の統一。故に地理的統合の統一は都市
又は村落を単位とするものである。

都市又は村落を単位とする

ローランド・ロフマンの「都市生活圏」

は此の中心より都市への同化を、考へる場合

の中心生活圏として統一を考へるもの

⑤ 都市生活圏の中心としての統一を考へるもの

⑥ 都市生活圏の中心としての統一を考へるもの

⑦ 都市生活圏の中心としての統一を考へるもの

⑧ 都市生活圏の中心としての統一を考へるもの

⑨ 都市生活圏の中心としての統一を考へるもの

⑩ 都市生活圏の中心としての統一を考へるもの

⑪ 都市生活圏の中心としての統一を考へるもの

⑫ 都市生活圏の中心としての統一を考へるもの

⑬ 都市生活圏の中心としての統一を考へるもの

⑭ 都市生活圏の中心としての統一を考へるもの

大工

鍛冶、左官、紺屋、匠者、石工、

手廻り、持舟、一戸位を以てし、又よく

あつた。今もいはる水戸、しりしり

堺市、其の他、在り、是れ、都府、邑、

道路、其の他、在り、是れ、都府、邑、

たう、其他、都府、邑、在り、是れ、都府、邑、

たう、其他、都府、邑、在り、是れ、都府、邑、

しりしり、持舟、一戸位を以てし、又よく

其の他、都府、邑、在り、是れ、都府、邑、

由の以外は、在り、是れ、都府、邑、

よのは、皆、都府、邑、在り、是れ、都府、邑、

より、支配、在り、是れ、都府、邑、

即ち、在り、是れ、都府、邑、

亦、在り、是れ、都府、邑、

在り、是れ、都府、邑、

く、在り、是れ、都府、邑、

(現代の歴史地理学)
郡部と市部

カンパウリンの Village 三橋 中 自治

郡部と市部の別

リヒトキンの... 郡部
ギストの... 自治
人に... 自治

多岐... 自治
郡部... 自治
自治... 自治

今... 郡部

そ... 郡部

の... 郡部

郡部... 郡部

郡部... 郡部

郡部... 郡部

郡部... 郡部

郡部... 郡部

郡部... 郡部

郡部... 郡部

郡部... 郡部

郡部... 郡部

郡部... 郡部

郡部... 郡部

木葉

漢葉

振替

耕種

市井

市井

市井の生活は昔の生活と異なり

土地を仲介し、その間に

土地の所有は人の手から

形成される。東京は

都市の生活は

農村の生活とは異なる

農村の生活は

土地の所有は

農村の生活は

土地の所有は

土地の固定化

土地の固定化は

農村の生活と

土地の固定化は

農村の生活と

土地の固定化は

農村の生活と

土地の固定化は

農村の生活と

土地の固定化は

農村の生活と

土地の固定化は

農村の生活と

土地の固定化は

農村の生活と

一、近隣

二、村落

三、都市

四、~~政治的~~政治的地區 (市町村、道、府、縣、郡、市、町、村、支庁の地區、設置管理區、官設の集團地區 (學校、郵便局、其他))

五、~~政治的~~政治的地區 (市町村、道、府、縣、郡、市、町、村、支庁の地區、設置管理區、官設の集團地區 (學校、郵便局、其他))

(東京府)

六、同心共同圈

(教育、病院、圖書館、總合サービス、職場)

七、都市生活圈

(青島、天津、北京、上海、漢口、廣州、香港、長沙、重慶、成都、西安、蘭州、西寧、昆明、貴陽、海口、台北、高雄、基隆、新竹、台中、台南、嘉義、屏東、花蓮、台東、澎湖、金門、馬祖、台北、台中、台南、高雄、基隆、新竹、台中、台南、嘉義、屏東、花蓮、台東、澎湖、金門、馬祖)

八、結婚圈

九、仰承共同圈

(文化圈、方言、大津北、仰光、曼谷、新加坡、吉隆坡、檳城、怡保、芙蓉、馬六甲、峇株巴轄、居林、日里、峇株、居林、日里)

H 上層法學團

a. 世帯の上にあるもの

1. 町内会

2. 街路組合

3. 祭祀団体

4. P.T.会

6. 近隣
市街会

長 書同文化法部の上にあるもの

1. 労働組合

2. 同業組合

3. 学業団体

4. 文化法団体

5. 不和しつ団体

c 個人の上にあるもの

1. 学業団体

2. 文化団体



大分県

本館信託 京都府知事